

②平成24年度 上田市立菅平小・中学校 学校自己評価表

学校教育目標	重点目標(中・長期的目標)	総合評価					
郷土を拓く大地の教育	①自分で考え、判断し、行動できる子ども ②自分や友だちの良さを認め合える子ども ③仲間と協力して課題を解決していこうとする子ども ④自らを鍛える逞しい子ども ⑤郷土に誇りを持ち、郷土を愛する子ども	冬を越え、スキー活動を目の前にすると、より「菅平らしさ」が意識できたのではないかとと思われる。この時期だからこそ、＜今後の菅平はどうあるべきか＞が見えてくると思われる。中学校3年生のスキーにおける活躍が、それらの一助となりえた面もある。児童・生徒が、「いつか、自分の力で菅平を発展させる」とまではいかないまでも、活躍を知ること、「いつかは自分も！」と夢を持つきっかけにはなり得たのではないだろうか。そのような明るい話題に後押しされる形で、これからも、地域・保護者・学校職員が連携を取り合い、菅平学校の発展のために尽力していきたい。					
	今年度の重点目標	A	B	C	D	成果と課題	改善策・向上策
	(1) 自分から進んで学習を進められる児童・生徒の育成をめざす。 (2) 互いの良さを認め合い、前向きに取り組む集団生活をめざす。 (3) 菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる。	○				＜覚えること＞、＜考えること＞、＜伝えること＞の場面を明確にしておく学習にはなりきれなかったが、どれか一つにこだわった学習展開ができた。 職員自ら小中間関係なく、児童・生徒に語りかける姿が多く見られた。その様子も広げることができたと思う。 後期には講演会などがないため難しい面もあったが、菅平に生きる身近な先輩としての中学生のスキー活動での活躍が児童には励みになった。	教育課程が全て新しくなった2年目(小学校は3年目)、教材研究の成果が蓄積されてきているので、より一層学習を盛り上げ、学力向上をねらいたい。 児童・生徒が、学校に向かうことがより楽しみとなるような、学校作りをしていきたい。 スキーだけでなく、夏の菅平も避暑地や高原野菜の産地としての良さがある。何らかの形でその発信を模索したい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	A	B	C	D	成果と課題	改善策・向上策
教育活動	学習活動	興味や関心を高めるための、めりはりの場面を仕組む授業を行う。	子ども達は、授業が分かり易いと思っているか。		○			小学校では、＜そう思う＞＜ややそう思う＞が小幅の減であり、現状維持の状態だったことが伺える。一方、中学校は反対に＜ややそう思う＞が増え、学期が進んだことにより難しくなってきたと特に、スキー活動が盛んになったため、座学への取り組みに大きく課題を残すことになってきたと思われる。	学力向上と校技スキーとの共存共栄をはかるために、教科書通りの單元で学習するというのではなく、單元入れ替えの工夫なども行いながら、児童・生徒にとっても無理のない計画で学習を進めて行くことも視野に入れて考えていきたい。
			子ども達は授業について、興味を持って楽しい・面白いと感じているか。		○			小中ともに＜ややそう思う＞から、＜ややそう思う＞へ意見が移行したように思われる。内容が難しくなる中でも、教職員の日々の努力が児童生徒に伝わり始めたと思える。これが、結果に表れる形にまで持って行けると上記と、関連させて、向上に繋がることで、自信につながる。	さらに、児童・生徒の意欲を高める教材を探し、教材研究を通して、子ども達の笑顔を増やすことにエネルギーを注ぎたい。
	生徒指導	教師自らが子どもの良さを伝え児童・生徒の意識を啓発する。	先生は、友だちや自分の良いところ・努力しているところをたくさん紹介しているか。(授業や通信を通して)		○			小学校は前期のまま推移したが、中学校は＜そう思わない＞へ多くの意見が動いたことは真摯に受け止める必要がある。授業→学習から見直しが必要ではないかと思われる。	中学校から小学校へは、授業の空き時間を利用しての教材研究が充実してきているが、小学校から中学校へは、この時期に行事が立て込んでいることもあり、なかなか準備の時間がとれないことが伺える。行事削減等も検討していく必要がある。
			子ども達は、先生や友だちから、がんばっている友だちの様子を聞いて、「自分もがんばろう」と考えることができていくか。		○			小中ともに、好評価になってきたと捉えることができる。それが単に「甘えさせる」だけに繋がないよう、＜暑めどころ＞と＜叱りどころ＞を明確にし、メリハリのある生活リズムとしていくことが望ましいと考える。	体調が問題になっている昨年、別のアンケートでも本校では体調がないことが分かった。我々職員が、児童・生徒ひとり一人の人権を大切に考えていくことが、更に必要となる。
キャリア教育	菅平の産業に学び、郷土に生きる人材を育てる。	学校の教育活動は、子ども達に将来の目標や生き方について考える力を育てているか。		○			小学校では、夏場の畑作活動から冬場のスキー活動にかけて、菅平の自然を生かした活動が良い評価を頂いていると思われる。一方、中学校ではスキー活動へ重点が移り、本人よりも保護者に不安が広がっていると考えられる。	児童・生徒の意欲的な活動の様子を伝えるとともに、将来についても大きな目標を持たせられるように、日々の授業の中で伝えていく必要がある。	
		子ども達は、菅平についての学習や家での手伝いなどを通して、地域に育つ喜びを感じているか。		○			小中ともに前期では気づきにくかったが、冬を迎えた後期では、スキーを中心とした菅平の様子を具に目することで、意識が向いていると思われる。	今後とも、地域に住む方々と児童生徒との橋渡しを学校が担えるようにし、地域の人材を登用するような企画を検討していく。	
学校運営	学校作りへの参加	教育課題を明らかにして学校作りに参加する職員。	先生は、学校目標や学級目標を明確にしており、子どもの目標や課題について応援しているか。		○			小中ともに好評価を得られていると捉えられる。よりの傾向が強くなってきたと考えたい。	学校目標は大きく変更するものではないが、それを受けて決定してくる学級目標には、児童・生徒の姿を見届け、傾向をつかみ、指導を通して、さらに目標を明確にしていきたい。
		学級や学校からのお便りには目を通して頂いているか。		○				全体的には好評価を得られているが、冬場になったため自信を持って＜そう思う＞とされる方が減少を示した。しかし、学校からの通知には、目を通して頂き、忙しい中でも学校の様子について意識して頂いていると考えたい。	より多くの方に目を通して頂けるよう、平易な文章で、より多く児童・生徒の様子を伝えていきたい。
		子どもの家庭生活の様子を、先生に伝えてくれているか。		○				前期のアンケート結果を受けて、意識的に学校に開いて頂いたように思う。または、スキー活動が本格化しているこの時期であるので、何かと学校にお寄り頂ける保護者が増えたことで、伝えやすい環境となっていると考えられる。	日ごろから保護者のみなさまから信頼を得られるための努力を継続していきたい。
		子ども達のがんばりを認めているか。(授業参観や懇談会、家庭学習、お手伝い等を通して)		○				小学校はほぼ全て＜思う＞方に意見が集まっている。小学校は校内スキー大会もあり、児童への応援もたくさん頂くことができたと思える。中学校もかなりの率で＜思う＞に入っている。	家庭教育のあり方については、保護者・教職員が集まるPTA総会や各学級の懇談会などで、常に議論ができる雰囲気作り心がけていきたい。
		将来の夢や目標について、家庭で話題にすることがあるか。		○				小中ともに、評価が減少している。時期的に家族がそろうことが少なくなるのではないかとと思われる。また、日常的に話題にもなりにくい面もあるのではないかとと思われる。	進路学習はどの学年であっても、やるべき内容と考える。なにか月間などを企画し、授業を通してきっかけを作ることも考えていきたい。
		学校生活を向上させようとする児童会・生徒会	子ども達は、顧問の先生と協力しながら、自分たちの力で作り上げようとしているか。		○				小学校は新児童会長が決まり、中学校は引き継ぎを終えて新生徒会が動き出したこの時期、児童・生徒の意識は高くなっているものと思われる。それらが家庭にも伝わっていると考えられる。

○評価基準 A…達成できた B…概ね達成できた C…やや達成できなかった D…達成できなかった